

キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区 第3回新任教師研修会が遺愛で開催されました！！

9月12日（月）朝から1日、キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区第3回新任教師研修会が遺愛学院で開催されました。出席者は、福島県の若松第一高校2名、山形学院高校4名、基督教独立学園高校1名、とわの森三愛高校1名、北星女子中学高校2名、遺愛4名、東北学院中学高校1名、玉川聖学院中等部高等部1名、同盟から磯貝先生の17名でした。

受付、歓迎の挨拶の後、講堂での礼拝に参加していただきました。月曜日は、市内の牧師先生を招いての礼拝で、高2・高3の上級生の生徒と共に礼拝を守りました。参加した先生方は、静かに講堂に入場し、礼拝を守っている姿に、おとなしい生徒達という印象を持ったようでしたが、昼食後の校内見学の際に、体育の時間でしたが、大声を出し、走り回り、屈託なく笑っている様子を見て、普通の生徒達だと安心したようでした。遺愛の生徒達にとって、礼拝の時間は心落ち着き、自分を見つめる時間になっています。

礼拝後は、午前中に東北学院の大橋校長先生が『キリスト教学校の教師として赴任して～祈り、励まし合う友～』という題で講演し、午後は、玉川聖学院の水口校長先生が『キリスト教学校ではどんな教師が必要とされているか』という題で発題をしました。大橋先生はキリスト教学校も現代社会の中で存立しているので、現代社会の動きに常に関心を持ち続ける大切さを強調していました。また、水口先生は私立学校の独自性、キリスト教学校の独自性を説明しながら、キリスト教学校で必要とされる教師像について発題していました。「生徒一人一人にかけがえのない存在として関わるのがキリスト



大橋先生の講演



水口先生の発題

教学校であること。しかし、どうしてもやむなく学校を離れざるをえない生徒が出たときには、痛みをおぼえつつ生徒と向かい合える教師でありたい。学校を巣立ったあとも関係をもち、責任を持ち続けるのがキリスト教学校の教師である。」という言葉が、とても印象的でした。その後、二つの分団に分かれて、話し合いの機会を持ちました。率直に感想を述べ合い、各学校や自分の課題について話しをしていました。印象としては、今回の研修に参加された新任の先生方は、とても前向きにキリスト教学校を受け入れており、一人一人の生徒を大切にしていきたいという意識が高いように感じられました。限られた時間でしたが、とても内容のある良い研修会になったのではないかと思います。

2016年9月16日（金）